

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671300550		
法人名	社会福祉法人 那賀町社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム 平野のどかの里		
所在地	徳島県那賀郡那賀町平野字妙見前1番地1		
自己評価作成日	平成21年10月22日	評価結果市町村受理日	平成20年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3671300550&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成21年11月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症などがあっても住み慣れた家や地域で一日でも長く過ごせるように、グループホームの空室を短期利用型共同生活介護として活用し、規則正しい生活や適切な食事・栄養管理をすることで、在宅生活の継続を支援している。職員との関わりの中で、行動障害が減少した利用者も居られる。利用者は地域の住民に支えられて行事に参加するなど、細やかな支援が行われ、生き生きとした生活を送っている。また、地域の方から旬の野菜をいただき、職員はその食材を使って食事を作っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は旧小学校舎跡を改装した建物で、山あいのどかな集落の中心地にある。地域のほとんどの諸行事が、隣接する体育館や運動場で開催されることが多く、利用者と住民との交流の機会が多くある。利用者は温かく協力的な隣接住民に支えられ、住み慣れた地域で生き生きと生活している。職員は理念に謳われている、利用者の笑顔がある「居場所づくり」に取り組み、地域住民や行政と連携を図りながら、様々な地域活動に楽しく参加できるよう細やかな支援がなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の採用時に理念を伝え、理解してもらっている。ミーティングや申し送り時には必ず理念を振り返り、日常のケアにつなげている。	利用者が住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられるよう支えていくことを目指した理念がつけられている。職員はミーティングや申し送り時に、実践への振り返りをして理念の共有を図り、日々のケアにつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域を散歩したり、文化祭などの催し物やボランティアに参加したりしている。	地域の秋祭りや運動会、早抜き、消火栓点検などの防災活動等地域諸行事への参加を行っている。またのどか祭りへの住民招待、学童保育児童との交流等に加えて、日々の散歩時の挨拶など、日常的な交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症や加齢に伴う症状に関する相談を受けたり、アドバイスしたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回、開催している。会議では事業所からの報告や参加者からの提案、問題提起に取り組み、意見交換を行っている。	サービスの実情や外部評価結果等の報告、課題への話し合いを行っている。参加者から率直な意見や提案を得て、サービス向上に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の空室情報や入居希望などを、電話や窓口を訪問するなどして伝え、話し合いを行い連携している。	事業所の空室情報や入居希望者数等の実情を伝えるとともに、制度についての指導を受けるなどして連携が密に図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践している。やむを得ない場合に備えて、マニュアルを作成している。	職員は玄関に鍵をかけることの弊害を理解し、見守りを強化するなどして一時期鍵をかけない取り組みを行った。山間部に位置する事業所周辺には山が迫り、外に出られた利用者の様々なリスクを考慮し、家族や関係者と話し合いのうえ、内側から施錠し、外から自由に開けられるようにしている。	利用者の安全と自由な暮らしの支援について、家族・関係者で話し合い、現状に至っているが、なお安全面に配慮しつつ自由な暮らしの確保に向けて継続した話し合いが期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する理解や浸透に向けて、パンフレットでの啓蒙や疑問を見逃さないよう注意を払うなど防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターを中心とした高齢者虐待防止ネットワークに参加している。現在は対象となる利用者が居ないため、全職員の理解につながっていない。また、必要なときに支援できる体制が整えられていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に時間をとって、丁寧に説明することを心がけている。本人や家族には、事業所のケア方針や取り組みに理解・納得してもらったうえで契約できるよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には、毎月の情報提供や来訪時に何でも言ってもらえる雰囲気づくりに努めている。意見や要望は直接言ってもらえる関係づくりができてい。出された意見や要望等は職員ミーティングで話し合い、統一した対応を行っている。	個別便りでの情報提供や問いかけ、来訪時の声かけなど、話しやすい雰囲気づくりに努めている。出された意見や要望は職員ミーティングや運営推進会議で話し合い、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティングなどで広く意見を集め、運営面での課題などを出し合い、改善を行っている。	職員ミーティング時に加えて、管理者は常に職員の声に耳を傾け、問題等気付いたことはそのつど話し合いを行い、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の福利厚生を充実するために福利厚生センターに加入したり、処遇を改善したりできるよう努めている。また、勤務態勢を見直し、休暇を取りやすくできるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他事業所との交流を兼ねた実習や認知症専門研修などに、積極的に参加している。また、認知症専門研修の講師に事業所内でも講義してもらい、サービスの質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症グループホーム協会徳島県支部に加入し、情報収集や勉強できる機会を設けている。また、相互評価事業にも参加し、サービスの質の向上に励んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族、ケアマネジャーから詳しく話を聞いている。入居に当たっては、馴染みの品を持ち込める事、趣味や特技を生かした支援を行うことなどを説明し、安心してもらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	時間をかけた説明の中で、納得と同意が得られるよう努めている。介護の苦労や経緯を傾聴することで、家族の思いを理解しながら相談を受けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な場合には可能な限り柔軟に対応し、空室がある際には短期利用型共同生活介護を提供している。場合によっては、他のサービスにつなげるなどの対応も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを全職員が共有し、また普段から昔の風習や生活の知恵を教えてもらうことが多い。また、そういった場面が多くもてるようなセッティングを行い、支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いをきめ細かく伝えることで家族との思いを重ね、本人と一緒に支えていくための協力関係が築かれている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人との関係が途切れないよう配慮している。電話をかけた時、面会に来てくれたりした時には、温かく出迎えている。	地元商店での買い物、文化祭への作品出展等、地域活動への参加の支援を行っている。事業所に来訪された時は暖かく迎えるなどして、馴染みの方との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者から個別に相談を受けたり、話を傾聴したりすることで、皆で過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる居場所づくりを心がけている。職員は、利用者同士の人間関係を把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用時により良い関係を築き、その関係を継続している。退居後も相談に訪れる方や旬の収穫物を差し入れてくださる方、年賀状を送ってくださる方がいる。退居後も入居時と変わらず接してくれる家族もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、利用者の返事の仕方や表情からその真意を推し量り、一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。意思疎通が困難な方には家族から生活歴や意向を聞いて、本人本位に検討している。	日々の暮らしの中で、利用者の言葉や返事の仕方、表情等から真意を把握している。意思疎通が困難な時には、家族や関係者から情報を得るなどして、思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面接の際に生活歴や病歴を聞くほか、本人自身との会話や家族等との面接で少しずつ情報収集することに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者のできる力や興味のある事に注目し、生活の中で適切な支援ができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いや希望を聞き、また家族から在宅での様子を聞くことで本人らしい生活を送れるよう介護計画を立てるとともに、見直しも行っている。	本人の思いや希望、在宅での様子を聞き、意見や望みを反映させた介護計画を作成している。また、カンファレンスには医師の参加も得ながら、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に食事摂取量や身体状況、職員とのやり取りを記録している。全職員には、勤務開始前に記録を確認することを義務づけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	空室を利用して短期利用型共同生活介護を実施したり、体調不良時や精神的に不安定な時には家族に泊まりに来てもらったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方のお世話で和歌を投稿したり、文化祭に作品を出品したりして生活に張りを持たせ、生きがいづくりを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に応じて、かかりつけ医の受診を支援している。併設する診療所の医師にはカンファレンスにも参加してもらい、信頼関係も築けている。	本人や家族が希望するかかりつけ医と連携を密にしながら受診の支援をしている。特別な場合を除き、通院支援も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設する診療所の看護師や町の保健師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	月曜日から土曜日は主治医との連携がとれている。また、今年度から協力体制を築いている病院では、土・日・祭日・早朝・深夜において、急な体調不良時に電話で指示をもらったり、受診したりできる関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期には対応しない。家族とかかりつけ医の協力があれば、例外もあり得る。	重度化した場合や終末期に向けた方針については、利用契約時に本人や家族と話し合いを行っている。職員構成や医療体制等の観点から基本的には対応できないことの了承を家族等に得て、かかりつけ医と連携を図りながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、救急救命士を招いて訓練している。AEDの使用方も訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難・消火訓練を行っている。緊急時には、非常口を簡単に開けられるよう改善している。	非常口設備の改善や町消防署及び防災設備業者による避難・消火の訓練を行い、災害時に利用者が避難できる方法を全職員が学んでいる。職員は地域の防災活動にも参加して地元との協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導や食事介助の際には、他の利用者に気づかれぬようさりげない言葉かけを行っている。日々の関わり方を点検し、利用者の尊厳を守る対応の徹底を図っている。	トイレ誘導や食事介助など日常の支援において、利用者の誇りを傷つけないよう言動に気を付け、さりげない支援を心がけている。個人情報守秘義務については必要に応じて話し合い、職員の退職時にも徹底を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との会話の中から興味のあることや嗜好を探っている。本人が自己決定できるような場面づくりのために、複数の選択肢を提案し、利用者自身が決められる支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の気持ちや体調に合わせて個別支援を行っている。基本的な一日の流れの中においても、一人になれる時間や趣味の時間をとることができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族と協力して行きつけの美容院に行ってもらったり、本人が衣服を決定できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に献立を考えたり、旬の食材を使った料理を利用者に教えてもらったりしている。利用者に皮むきや食材を切ってもらうことがある。	地域の方から頂いた旬の食材を使った献立を利用者と一緒に考えたり、調理法を教してもらったりして、利用者と職員が楽しく食卓を囲み会話を弾ませている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせた食事量の提供と、摂取した量の記録を行っている。また、脱水症状を引き起こさないように、水分補給をこまめに行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを徹底している。夜は義歯の消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、定期的な排泄の言葉かけと誘導を行っている。一人ひとりの状況に応じて紙パンツや布パンツ等を適切に使用し、紙パンツの使用が減って布パンツになった方もいる。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、その人に合った声かけや誘導を行っている。トイレでの排泄や布パンツ使用への切り替え等、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をこまめに行うのと同時に、食物繊維を多くとれるように献立を考えている。便秘が解消されない場合には、整腸剤や下剤を使用することもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、午後1時半から実施している。冬至にはゆず湯にするなど、季節を楽しんでいただいている。毎日の入浴で全身を観察し、身体や体調の変化を早期に発見できるように努めている。	全利用者はほとんど毎日入浴している。冬至にはゆず湯をするなど、季節ごとの行事湯のほか、日常は温泉浴剤などを使用して入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	規則正しい生活が送れるように支援している。個人の体調に合わせて、休息をとっていただいている。天気の良い日には布団を干したり、散歩したりし、安眠促進の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーを綴って利用者の服薬管理に努めている。分からない事があれば、病院や薬局に問い合わせたり、利用者の変化を見逃さないよう注意したりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個人の得意分野で能力が発揮できるよう支援している。本人ができることは担ってもらい、終わった時には感謝の言葉をかけるようにしている。利用者の経験や知恵を活かせるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日に散歩に出かけたり、ドライブしたりしている。年に1回の遠足に加えて、お花見や美術館の見学なども行っている。週1回、木曜日市に行っている。	事業所の南面には旧学校のグラウンドがあり、天気の良い日はよく散歩に出かけている。また遠足やお花見等のほか、町福祉バスを利用したドライブや行事への参加、地元木曜日市への買い物など利用者の希望にそいながら外出を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事業所で金銭を預かっていない。家族から金銭を預かった場合は事業所で管理し、買い物の際に渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけることや、取り次ぎの支援を行っている。要望に応じて手紙の支援もできるように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が不快に感じる音や光は発生しないようにしている。茶碗を洗う音やご飯が炊ける匂い、聞き慣れた音楽で五感を刺激したり、ゆず湯で季節感を感じてもらうなど工夫している。	旧小学校舎を改装した事業所は南面が広く、窓からの暖かい日差しと木々の景色が季節をいっばいに体感させてくれる。居間からの眺めがよく、明るく暖かい。食卓には季節の花を飾り、調理の音や職員との会話が聞こえ、家庭的でくつろいだ空間になっている。トイレや浴室等も便利よく整備されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂には腰掛けやすい座敷のスペースを設けている。廊下は東西に長く、休憩ができるよう長いすを設置している。居室にはソファを置いて仲の良い利用者同士でくつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品を持って入居していただけるよう配慮している。また、自宅での習慣が継続できるよう趣味や特技に使う道具を持ってきてもらうこともある。居室にはソファを置き、仲の良い利用者同士でくつろげるようにしている。	馴染みの家具や時計などの日用品に加えて、カレンダーや手作りの手芸品等を飾り、それぞれ好みの居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の出入り口に名札を掲示したり、浴室やトイレなどには大きくわかりやすい表示を付けている。また、職員が適宜、言葉かけを行い、失敗したり迷ったりしないよう配慮している。		